

労働災害の現況

令和4年の概況

目次

1 労働災害の推移	……P1
2 月別の発生状況	……P2
3 業種別発生状況の推移	……P2
4 事故の型別発生状況の推移	……P3
5 起因物別発生状況の推移	……P3
6 事故の型・起因物別発生状況	……P4
7 年齢別発生状況	……P4
8 主要業種別経験年数別発生状況	……P5
9 主要業種別事故の型別発生状況	……P6



七尾労働基準監督署

1 労働災害の推移

死傷者数、死亡者数共に若干の減少(新型コロナウイルス感染症を除く)

(1) 死傷者数

令和4年に発生した労働災害の休業4日以上死傷者数は、221人であるものの、新型コロナウイルス感染症による労働災害を除くと129人となり、令和3年よりも3人(2.3%)の減少となった。(労働者死傷病報告の集計による人数。以下同じ。)

長期的な発生状況の推移は、図1のとおり。平成15年以降災害発生件数は緩やかに減少している。

表1 前年との対比

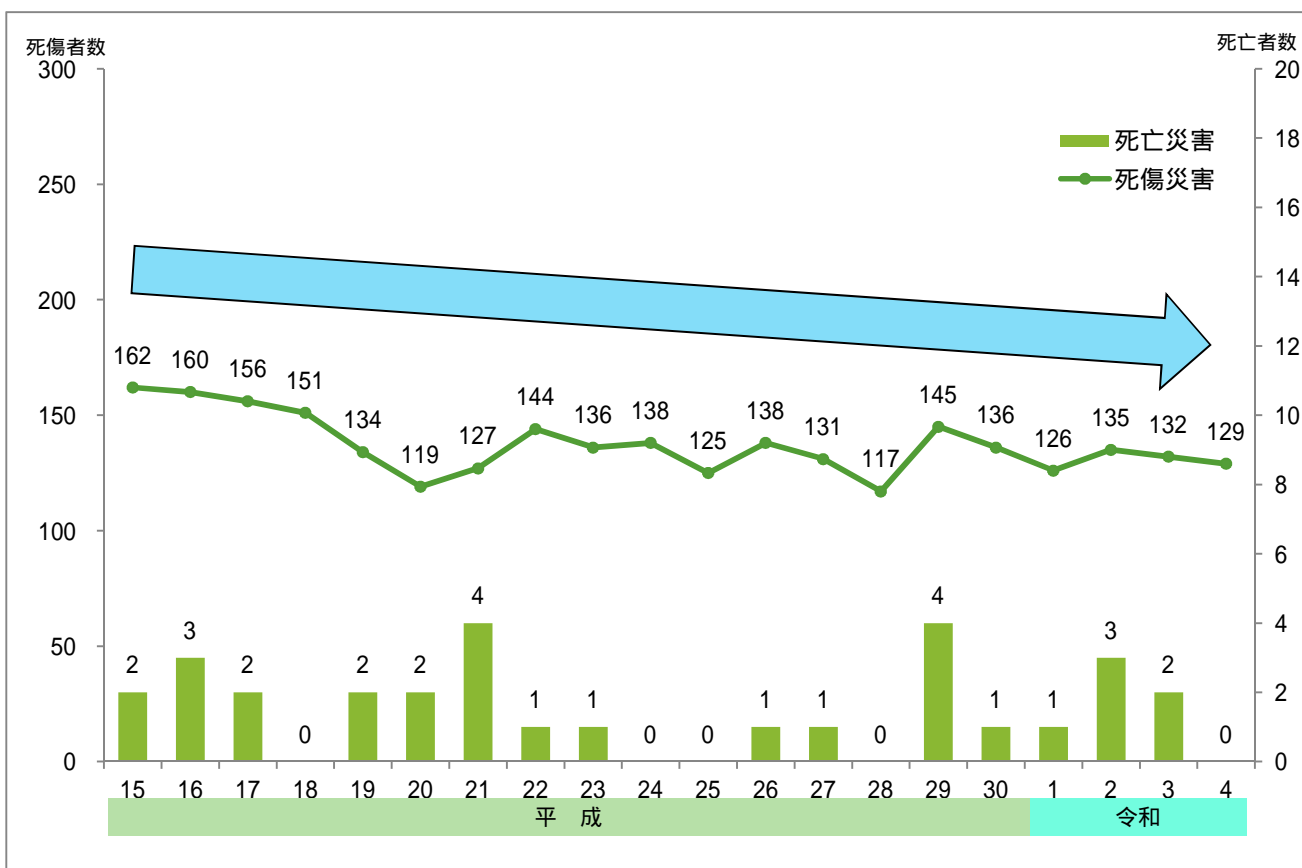
対象年	死傷者数 (休業4日以上)	死傷者数 (休業4日以上) コロナ除く	前年との対比(コロナ除く)	
			増減	増減率(%)
平成30年	136	136	19	16.2
令和元年	126	126	10	7.4
令和2年	136	135	9	7.1
令和3年	165	132	3	2.2
令和4年	221	129	3	2.3

(2) 死亡者数

令和4年には死亡労働災害が発生しなかった。

過去5年間に発生した死亡災害(7人)の内、3人が建設業であり、その他が4人となっている。また、事故の型別では交通事故が3人、墜落・転落が2人、その他が2人となっている。

図1 年別労働災害発生状況の推移(新型コロナウイルス感染症を除く)

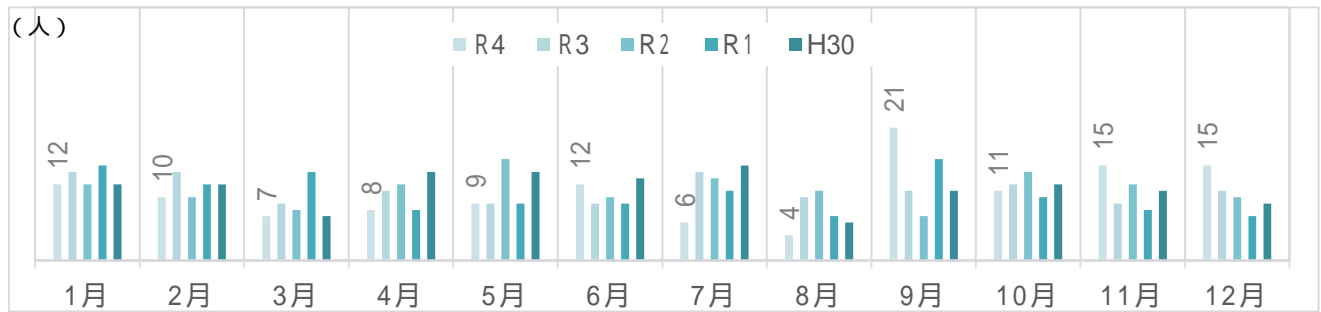


2 月別の発生状況(以下、新型コロナウイルス感染症を除く)

冬季の凍結等環境要因により1月が最も多く発生している

月別の発生状況では、令和4年は9月に多くの労働災害が発生した。また、例年冬季の凍結等による影響が大きい12月から2月にかけて労働災害が多く発生している。

図2 月別労働災害発生状況の推移(年対比)(新型コロナウイルス感染症を除く)



*グラフ上の数字は令和4年の発生件数

3 業種別発生状況の推移

製造業、商業、社会福祉施設で増加するも、全体としては減少

(1) 製造業

死傷者数は35人(全産業に占める比率は27.1%)となり、前年と比べて6人、14.6%減少した。業種中分類で細分化すると、発生件数が特に減少したのは化学工業(発生件数2件、4件減)、一般機械器具製造業(発生件数1件、4件減)であり、発生件数が特に増加したのは繊維工業(発生件数5件、3件増)であった。死亡災害は、前年に引き続き発生しなかった。

(2) 建設業

死傷者数は19人(全産業に占める比率は14.7%)となり、前年と比べて5人、35.7%増加しており、細分類では土木工事業で大きく増加(発生件数7件、5件増)した。死亡者数は発生しなかった。

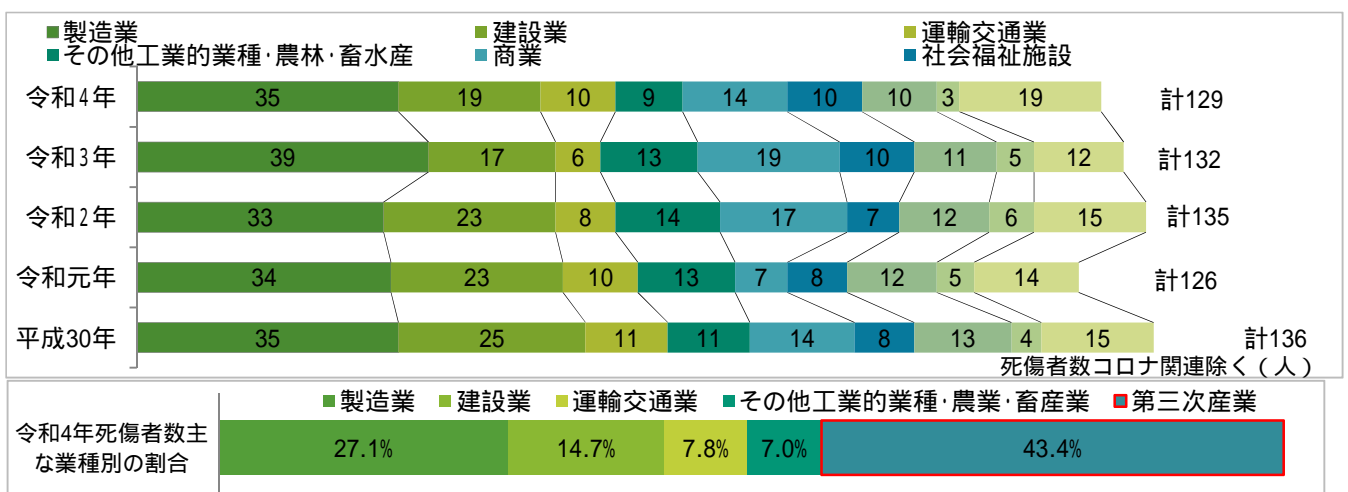
(3) 運輸交通業

死傷者数は10人(全産業に占める比率は7.8%)となり、前年と比べて3人、42.9%増加した。死亡災害は前年と同様に発生しなかった。

(4) 第三次産業

死傷者数は56人となり、前年と比べて1人、1.8%減少した、全産業に占める第三次産業の死傷者数の割合は43.4%と依然として高く、令和元年の46人と比較すると21.7%も増加している。細分化すると小売業において5人減少したものの、病院での災害が4件増加している。死亡労働災害は、前年と同様に発生しなかった。

図3 業種別の発生状況の推移



4 事故の型別発生状況の推移

「転倒」災害の発生件数が増加傾向にある

令和4年の労働災害について、事故の型別では、通路、作業床等における「転倒」災害の死傷者数が42人(全体に占める比率32.6%)と最も多く、次いで高所や階段等からの「墜落・転落」災害が33人(同25.6%)、「はさまれ・巻き込まれ」が15人(同11.6%)、「激突され」が9人(同7.0%)、「動作の反動・無理な動作」が8人(同6.2%)となった。転倒災害の発生件数が増加傾向にある。

図4 事故の型別災害発生状況の推移

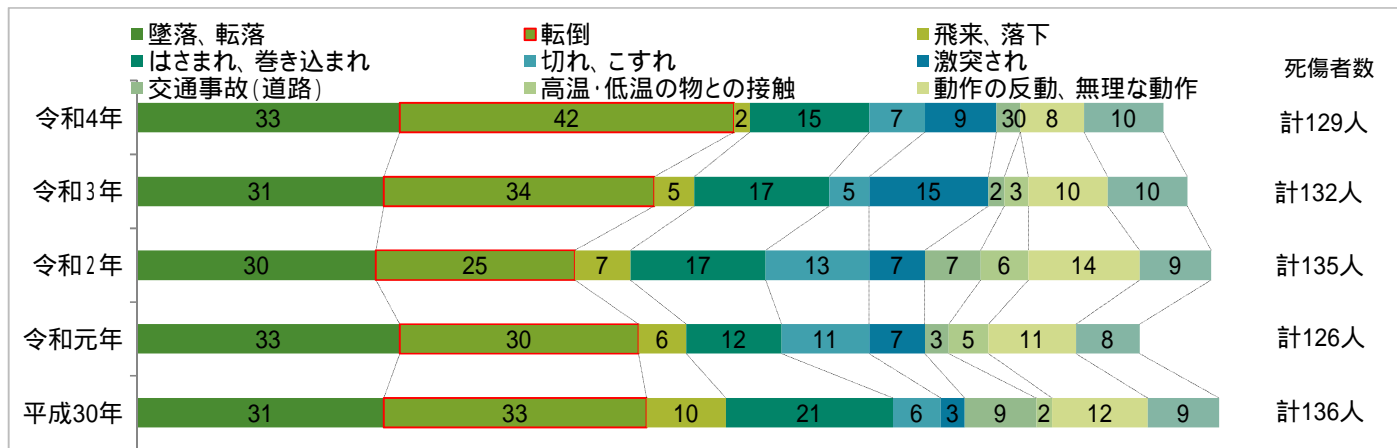
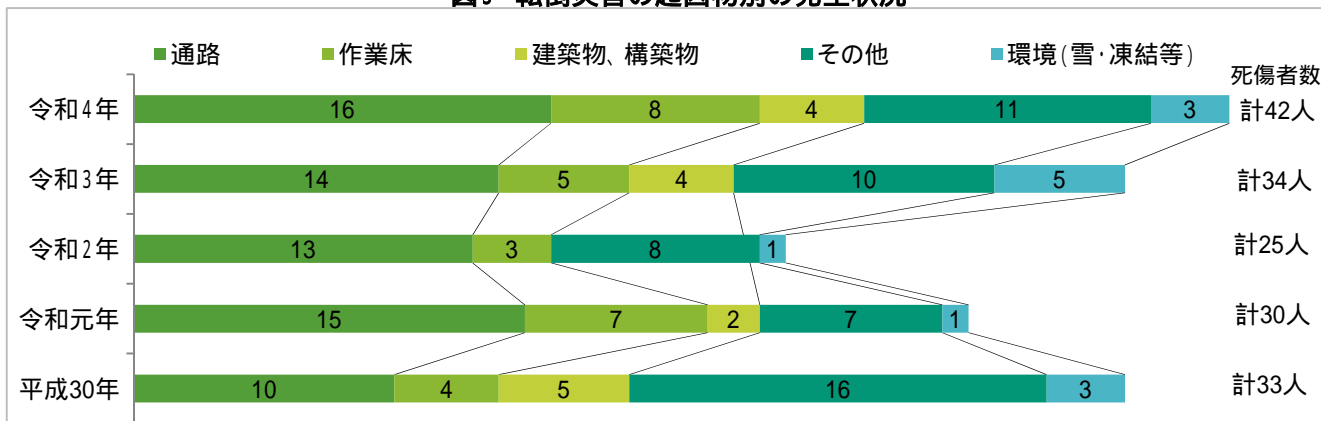


図5 転倒災害の起因物別の発生状況

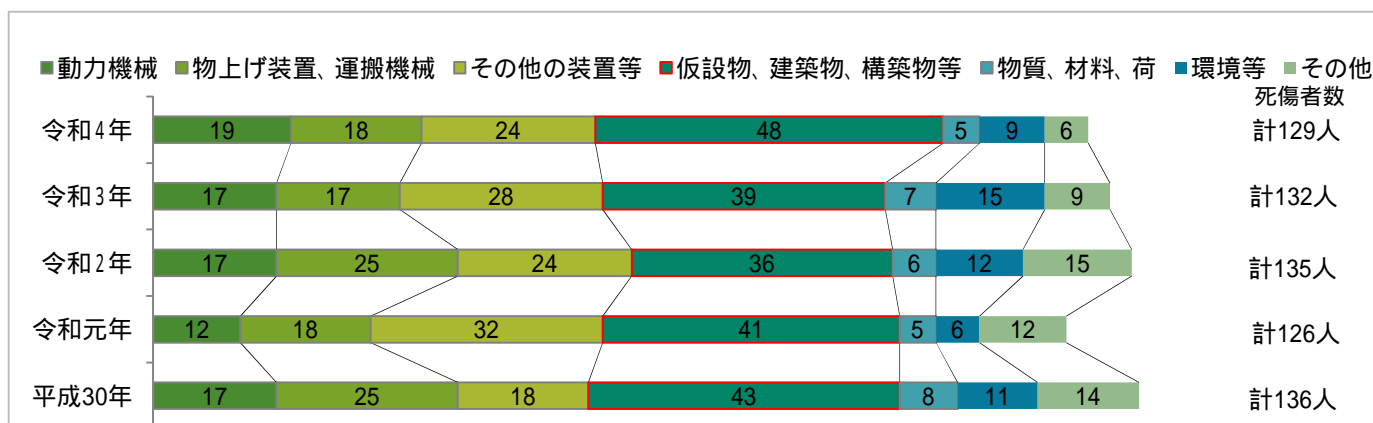


5 起因物別発生状況の推移

「仮設物、建築物、構築物等」による災害が増加

起因物別では、転倒災害の発生件数の増加に伴い、階段、通路、作業床等の「仮設物、建築物、構築物等」が39人(全体に占める比率が29.5%)と最も多く、次いで、はしご、人力運搬機、手工具を含む「その他の装置等」が28人(同21.2%)、クレーンなどを含む「物上げ装置、運搬機械」が17人(同12.9%)、一般製造用機械等の「動力機械」17人(同12.9%)がとなった。

図6 起因物別の発生状況

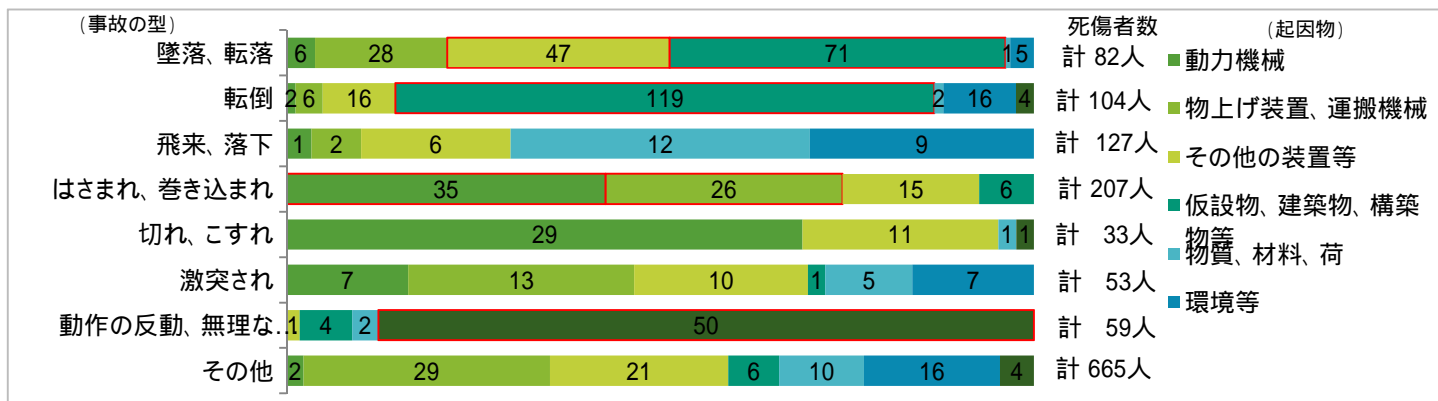


6 事故の型・起因物別発生状況(H30～R4の5年間:665人を分析)

事故の型別起因物別において、最も死傷者数が多い「転倒」災害は、作業床、通路などを含む「仮設物、建築物、構築物」に起因するものが119人となり、次いで「墜落・転落」災害でも「仮設物、建築物、構築物」に起因するものが71人となっている。この2つの事故の型の「仮設物、建築物、構築物」の合計は207人となり、全体の比率は、31.1%を占める。

この他、「墜落・転落」災害は仮設物等による災害の他に脚立を含む「その他の装置等」に起因するものが47人、「はさまれ・巻き込まれ」災害は各種機械を含む「動力機械」とクレーン等の「物上げ装置、運搬機械」に由来するものが合計61人、「動作の反動・無理な動作」災害は、腰痛、関節捻挫等を含む「起因物なし」に分類されるものが50人となった。

図7 事故の型・起因物別発生状況、発生割合(100%表示)



7 年齢別発生状況

「50歳代」、「60歳代」、「70歳以上」の死傷者数は、合計76人となり、全体の58.9%を占め、過半数を超えている。社会福祉施設を含む保健衛生業はその割合が83.3%となり、旅館業、飲食店を含む接客娯楽業では80.0%、商業では64.2%となるなど、高年齢労働者の災害発生率が高くなっている。「動作の反動・無理な動作」による災害は全て50歳以上の労働者によるものであった。

図8 年齢別発生状況

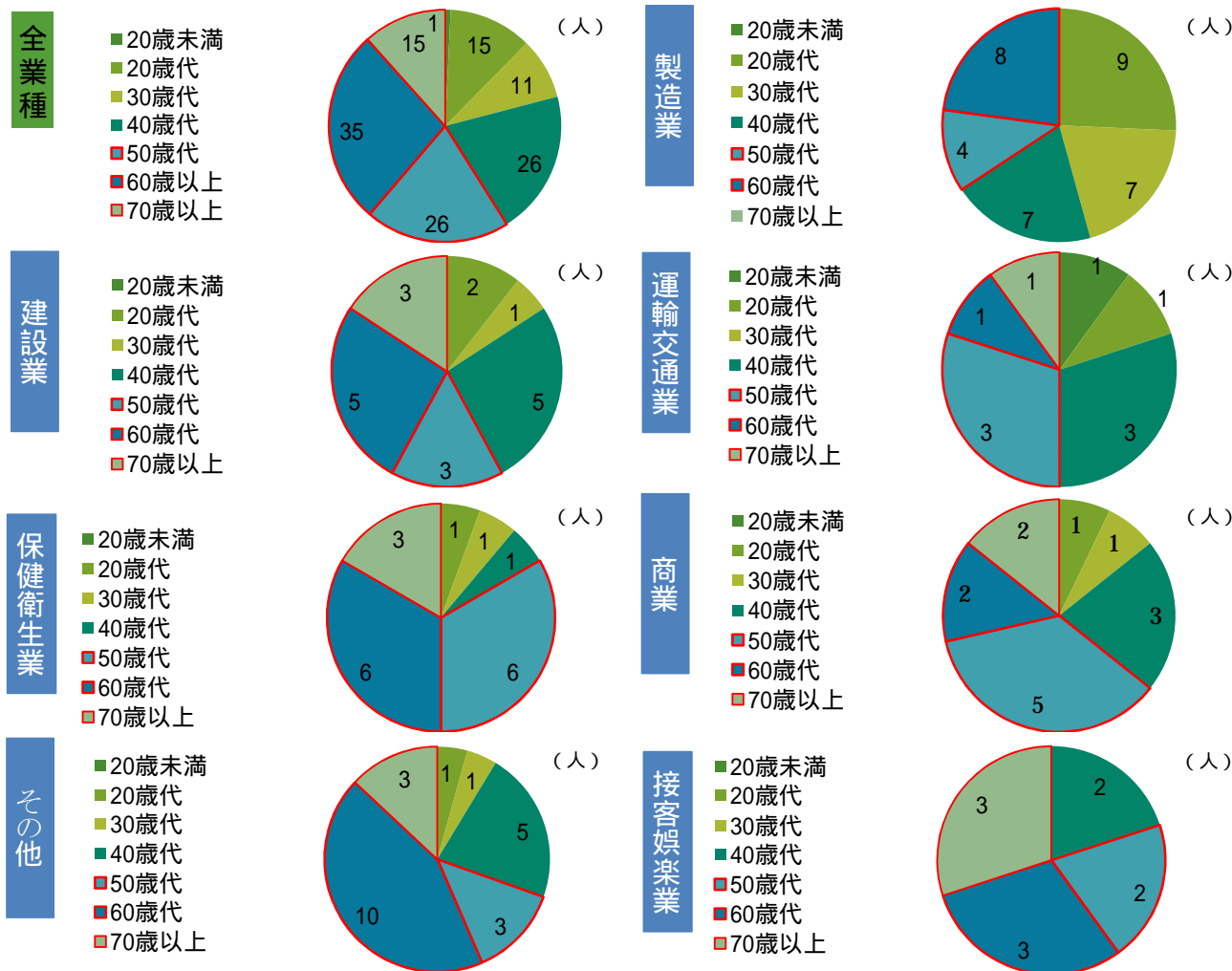
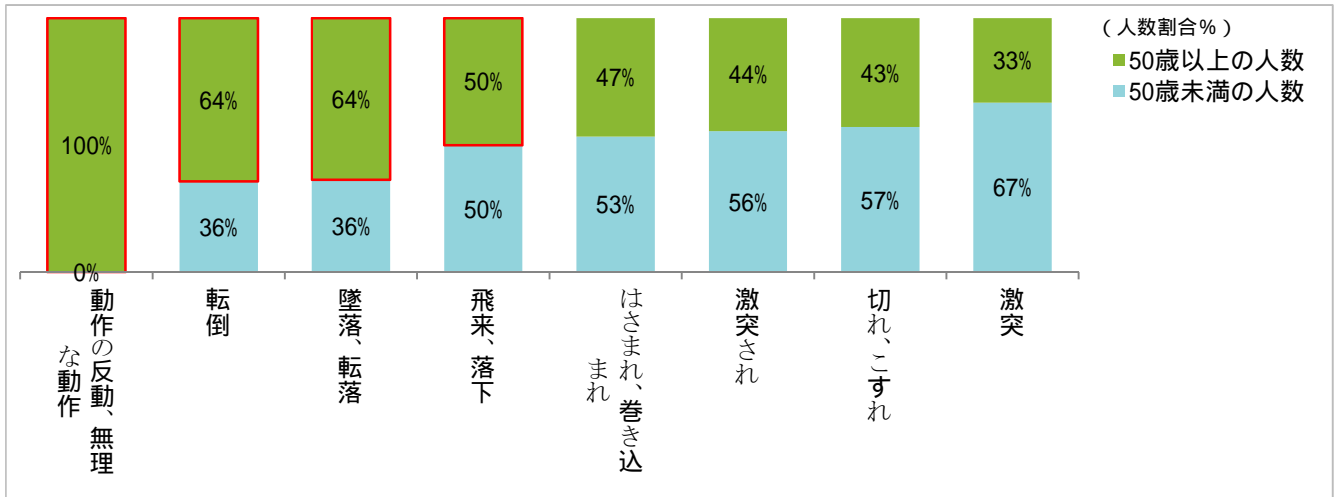


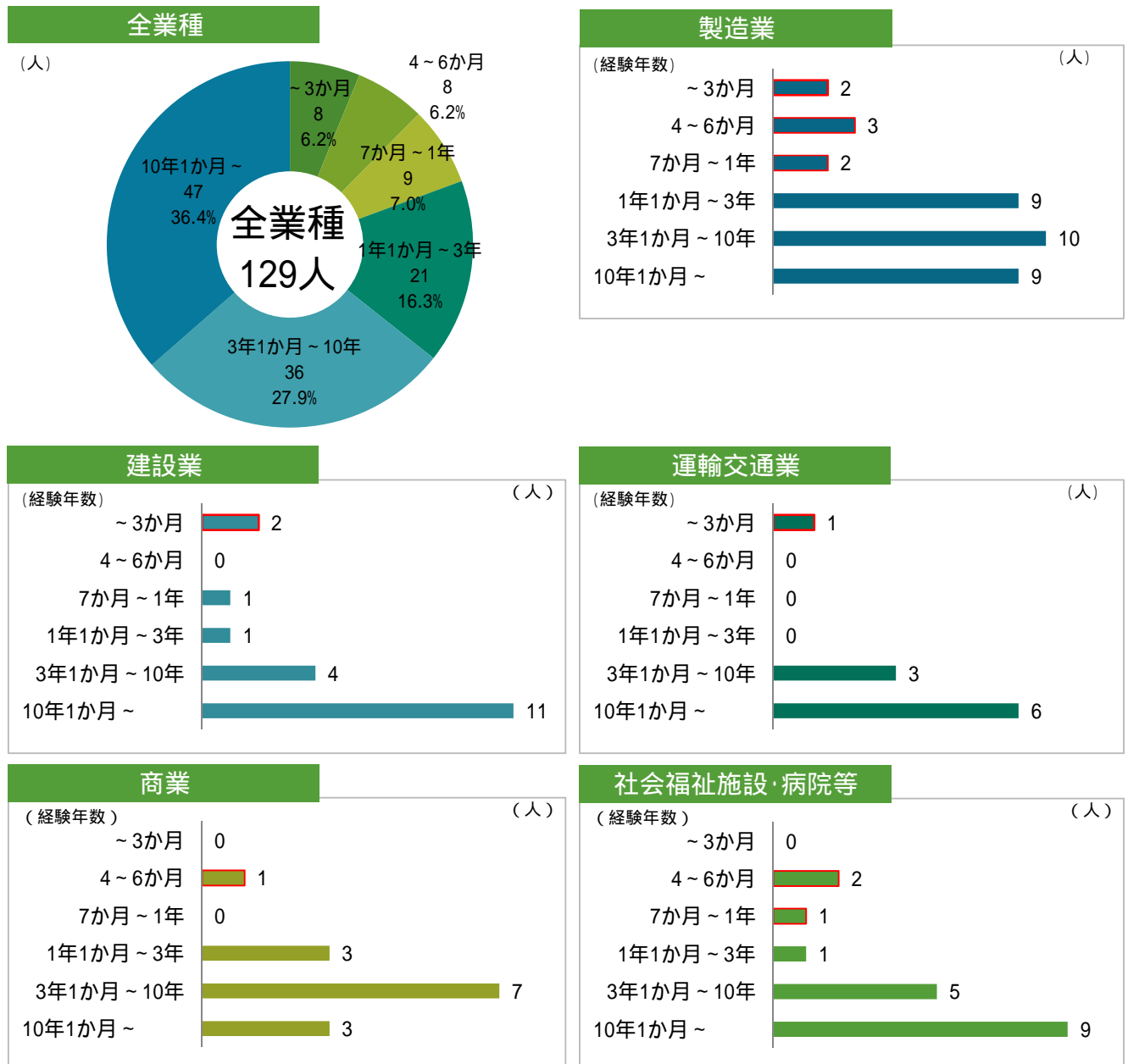
図9 事故の型別 全体に占める50歳以上の被災労働者数の割合



8 主要業種別経験年数別発生状況

経験年数別に見ると経験が1年以下の被災者数は、全体の19.4%を占める。また、業種を問わず「3年1か月から10年以下」の中堅労働者、「10年1か月以上」の熟練労働者の災害が多く発生し、全体の64.3%を占めている。

図10 業種別 経験年数別の労働災害発生状況



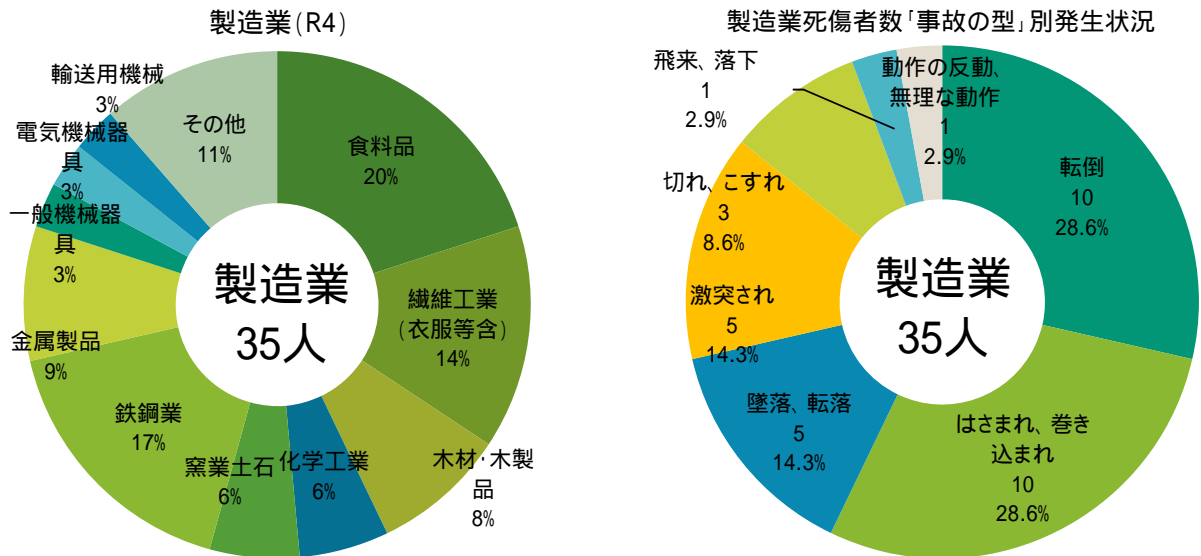
9 主要業種別事故の型別発生状況

製造業

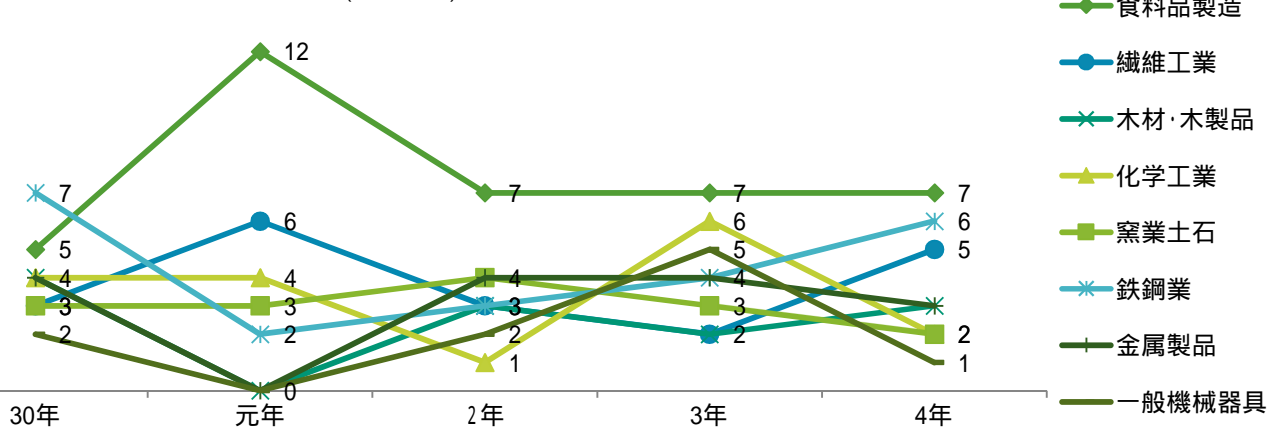
製造業の小分類別では、依然として食料品製造が最も多く、7人(20.0%)となっている。次いで、鉄鋼業が6人(17.1%)、繊維工業が5人(14.3%)となっている。死亡労働災害は前年に引き続き発生していない。

事故の型別では、動力機械等の「はさまれ・巻き込まれ」災害及び作業床、通路等での「転倒」災害がそれぞれ10人(28.6%)と最も多く、次いではしごや階段からの「墜落、転落」災害及び吊り荷や材料による「激突され」災害がそれぞれ5人(14.3%)となっている。

図11 製造業における労働災害発生状況



製造業の主な業種の発生状況(年推移)

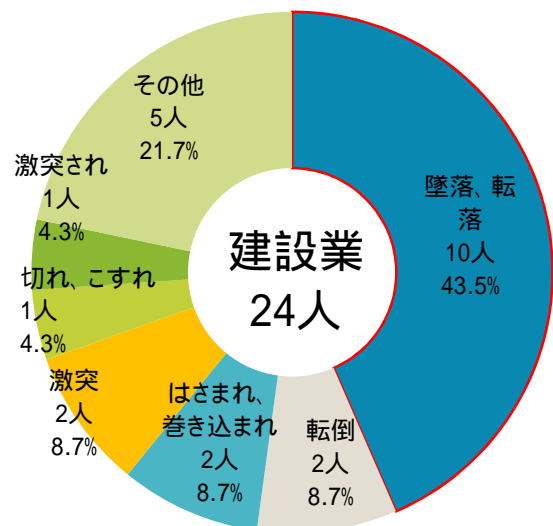


建設業

事故の型別では、「墜落・転落」が10人(43.5%)と最も多く、はしご、屋根、トラック、足場からの墜落災害が複数県発生している。また、「転倒」、「はさまれ・巻き込まれ」、「激突」災害が2人(11.8%)となった。

なお、死亡労働災害は発生していない。

図12 建設業死傷者数「事故の型」別発生状況

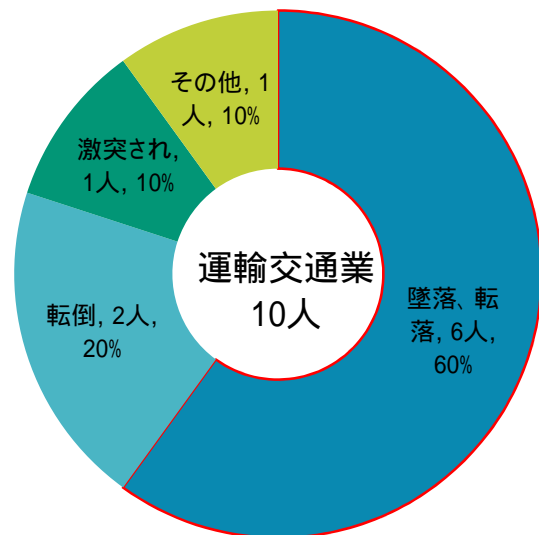


運輸交通業

事故の型別では、トラック荷台等からの「墜落・転落」災害が6人(60.0%)と最も多く次いで、通路、作業床に起因する「転倒」災害が2人(20.0%)、フォークリフトによる「激突され」た災害、その他の災害がそれぞれ1人(10.0%)となっている。

なお、腰痛による「動作の反動、無理な動作」は発生しておらず、死亡労働災害も発生していない。

図13 運輸交通業死傷者数「事故の型」別発生状況

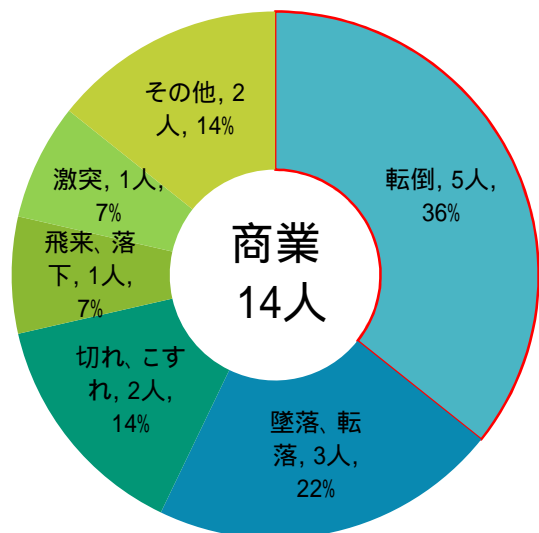


商業

事故の型別では、作業床、通路等に起因する「転倒」災害が5人(35.7%)と最も多く、次いで階段、脚立、トラック等からの「墜落・転落」災害が3人(21.4%)、手工具等による「切れ・こすれ」災害が2人(14.3%)、「飛来、落下」災害、「激突」災害がそれぞれ2人ずつとなっている。

なお、死亡災害については、発生していない。

図14 商業死傷者数「事故の型」別発生状況



保健衛生業

事故の型別では、作業床、通路等に起因する「転倒」災害が最も多く、12人(66.7%)発生しており、次いで脚立や階段等からの「墜落、転落」災害と介護作業、荷姿の物などを取り扱うときに発生した腰痛等の「動作の反動・無理な動作」災害がそれぞれ3人(16.7%)発生した。

なお、死亡災害は発生しなかった。

また、新型コロナウイルス感染によるものは85人となった。(統計には含まれていない)

図15 保健衛生業死傷者数「事故の型」別発生状況

